

## 別れの言葉

通いなれた通学路を吹く風に、肌寒いながらも温かい春の気配が感じられる季節となりました。本日は、私たちのために、このように心のこもった卒業式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。ご多用の中、ご出席くださいましたご来賓の皆様、寄り添い、共に歩んでくださった校長先生を始め諸先生方、そして、私たちの成長を見守り続けてくれた保護者の皆様に、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

少し大きめの制服に身を包み、竜神中学校の生徒として一步を踏み出した入学式から、間もなく3年が過ぎようとしています。あの日、新入生の代表が誓いの言葉を述べているとき、大きな揺れが体育館を襲いました。中学校生活のスタートが地震と共に始まるなんて・・・そんな不安を感じたことを覚えています。でも、大きな揺れに動揺することなく新入生代表の言葉を伝えきった彼や、その言葉を真っ直ぐ前を向いて聴いていた仲間の姿を見たとき、「この仲間とならどんなことでも一緒に乗り越えていける」 そんな予感がしたのものはっきりと覚えています。その予感が、確信に変わったのはいつの頃だったのでしょうか。私たちは、学年スローガンである「チーム和」の名の通り、227 人が一つのチームとなって、共に過ごし、乗り越えてきました。そのすべてが今、色鮮やかに思い出されます。

1年生。学年スローガンは「チーム和、一生懸命がかっこいい」

先輩たちの、何事にも一生懸命に取り組む姿に憧れ、私たちもそうありたいと思

いました。初めての闘竜祭や虹竜祭では、一つの目標に向かって一生懸命に練習し、仲間と協力する楽しさを味わいました。部活動と学習との両立や、定期テストに向けての勉強など、大変なこともありましたが、教科ごとに変わる先生方との授業はどれも楽しいものばかりでした。今でも聞こえる、黒板に貼られるマグネットの音、パワフルな歌声、朗らかな笑い声。知らなかったことに会う楽しさや、一生懸命にやるからこそ味わえる面白さを、毎日の授業や行事を通し、感じる事ができました。

2年生の学年スローガンは「チーム和、やり抜く心」

先輩の背中を追いかけていた時から少し成長し、部活動や行事で、自分たちが主体になって行うことが増えていきましたその中でももっとも印象に残っているのが、妙高での自然教室です。初日は猛吹雪。慣れないスキーに、転んでは起き上がるの繰り返しでした。それでも楽しくて仕方がなかったのは、仲間と一緒にだったから。どれだけ転んでも心が折れなかったのは「頑張れ！できるよ！」と励ましてくれる仲間がいたから。仲間がいることのありがたさが身に染みました

この仲間と一緒によかったと感じたのは、それだけではありません。三日目の夜に行われた立志式。それぞれが、大人への決意を、担任の先生を前に大声で誓いました。「やり抜く心と向かい合った4日間」。私たちは絆と自信を身につけ、最高学年へと歩み出しました。

そして、3年生「チーム和、共に創る」 この仲間と過ごす最後の一年。

部活動の集大成である、夏の大会。私たち女子バスケットボール部は、大会を前

にけが人が続出し、その焦りからか、チームの心がバラバラになってしまいました。「もう一度みんなで試合をする」。その思いを一つにするためにミーティングを行い、全員で県大会出場を果たした感動は今も忘れられません。全力で打ち込んだ部活動で手に入れたものは、感動や結果ではなく、かけがえのない友達です。女子バスケ部のみんな、一緒に闘ってくれて本当にありがとう。

今年の闘竜祭はこれまでとは違いました。最高学年として自分たちのクラスだけでなく、団全体を盛り上げなければならない、滞りなく競技が進むように、スタッフとして後輩を引っ張らなければならない。うまくやれるか自信がなくてプレッシャーを感じていた私に、一人で頑張るのではなく、みんなで力を合わせればいいと教えてくれたのは、クラスの仲間でした。当日は突き抜けるような青空。風にはためく団旗。響き渡る団コール。プレッシャーを乗り越えた闘竜祭は今まで以上に学校全体の繋がりを感じることができました。

虹竜祭。最優秀賞を目標に掲げ、それぞれのクラスがわずかな時間を惜しみ、歌詞の意味を噛み締めながら練習しました。この仲間と歌えることが嬉しく、そして誇りに感じながら歌った虹竜祭当日の歌は、練習で歌ったどの歌よりも、心が震えました。

学年合唱「ここにしか咲かない花」はこんな歌詞から始まります。「何もない場所だけれど　ここにしか咲かない花がある私たちにとって、この竜神中学校が特別な場所になったのは、ここで出会った仲間がいたからです。クラスで、学年で歌った歌は、この先もずっと大切にしたい歌になりました。

今よみがえる思い出の数々。そこにはいつも、私たちを導き、支えてくださる多くの方の存在がありました。

たくさんのことを教えて下さった先生方。笑顔で声をかけて下さり、とても嬉しかったです。悩みを相談し、心が軽くなりました。先生から厳しいお言葉をいただいたときは堪えましたが、立ち止まって自分を見つめる機会となりました。何より、私たちを信じ、いろいろなことを経験させてくれ、そして、共に楽しんでくださいました。自分たちで作上げた虹竜祭の有志発表は最高の思い出です。本当にありがとうございました。

在校生の皆さん、先日は心のこもった翔竜会をありがとうございました。来年度からは新しい制服が誕生します。新しい竜神中学校が始まるのです。皆さんなら、これまでの伝統を受け継ぎつつ、新しい竜神中を作り上げていくことでしょう。あっという間に過ぎる中学校生活を、大志を抱き、誠実に進んでいってください。

お父さん、お母さん。うまくいかない感情をそのままぶつけてしまった日も、ありがとうやごめんなさいを素直に口にすることができなかったあの日も、そんなすべての日々を優しく大きな愛で包んでくれて、本当にありがとうございました。今日、こうして卒業という日を迎えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。その大きな愛に応えるにはまだまだ未熟な私たちですが自分が決めた道を一生懸命に歩いていくことが親孝行だと思っています。これからも心配をかけてしまうでしょうが、どうか見守っていてください。

そして、3年間を共に過ごしたみんな。何でもないことで笑い合い、くだらない

ことでケンカして、そんなあたりまえの日々がずっと続くものだ、なぜ思っていたのだろう。この日々の終わりが近づいてきた今、みんなと過ごした何気ない日々が宝物のように思えてくる。特別な時間を、共に過ごしてくれてありがとう。これから進む道は違って、私たち 227 人のチーム和はずっと心の中に生き続けますそれぞれの道を自分らしく進み、そしてまた笑顔で会おう。

思い出のすべてが、私たちの背中を優しく押しながら、「さあ、歩き出すときが来た」と教えてくれています。未来へと続くこの道に何があろうとも、竜神中学校の3年間で培ったことを胸に力強く歩いていきます。そしていつか、あの日誓ったになりたい自分になることを、誰かのために貢献できる大人になることを誓います。

最後になりましたが、竜神中学校の益々の発展を心から祈念して、別れの言葉といたします。

令和7年3月7日 第52回 卒業生代表